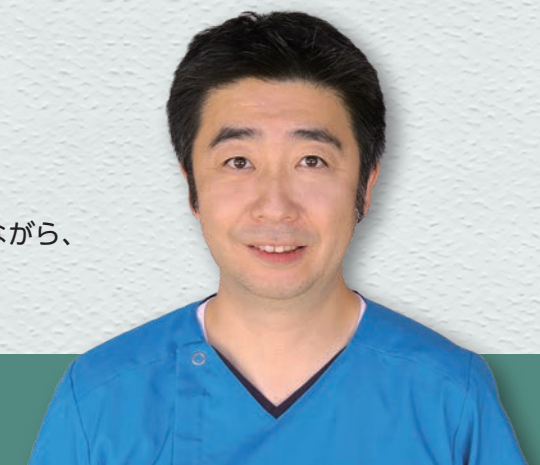


地域の口腔衛生環境の 向上を目指し、人材育成にも 力を入れる

秋田県大館市にある「小笠原歯科・矯正歯科」は、
2019年に移転新築し、規模を拡大。患者の歯を守りながら、
地域の歯科医療と人材育成にも力を入れている。

医療法人 Smile Products 小笠原歯科・矯正歯科
副院長 小笠原 正卓 先生



患者増に対応するため ユニットを7台に増設

「小笠原歯科・矯正歯科」は、JR大館駅から車で5分ほどの住宅地にある。国道に面しているのは、シンプルな門柱の看板と、一見、横長の塀にも見える外観。駐車場や玄関は、国道から右折、または左折して細い道に入らないと、見えてこない。

一軒家タイプの歯科医院は、建物をわかりやすく、目立つようにするのが当たり前という常識を覆し、国道に背面を見せているところが、ユニークだ。

小笠原正卓副院長は、その理由をこう話す。
「国道側を正面にしなかったのは、建築デザイナーさんのアイデアです。塀のような背面を国道側にすることで、通る人たちは『なんの建物だろう』と逆に興味を持ちます。そのアピール力を狙ったそうです。患者さんからは、『何かの寮かと思った』『カフェだと思った』などと言われています(笑)」

小笠原歯科・矯正歯科の開業は、1975年のこと。正卓副院長の父である小笠原正四院長が、現在地から70mほど奥まった場所に歯科医院を設けた。2007年から正卓副院長が父と一緒に働くようになったことを機に、2008年にリニューアル。2019年に現在地を新たに取得し、建物も新築した。

「移転したのは、患者さんが増えたことで手狭になったことが一番の理由です。移転後は、ユニットを3台から7台に増やしました」

国道沿いになったことで、よりアクセスがよかったことも患者には評判がいい。とはいえ、土地が見つかるまでは、時間がかかったという。

「すでに建物が建っている土地が多く、なかなか広い敷地を確保するのが難しかったのです。この場所も以前は倉庫が建っていました。銀行の担当者さんが熱心にご探してくださって、地主さんや倉庫の所有者さんとの交渉でも力を貸してくれたことで、移転が可能になりました」

移転新築を主導したのは、正卓副院長。正四院長は、全面的に任せてくれたそうだ。

「私が父の歯科医院で働くようになってから、徐々に親子継承は進んでいましたが、移転を機に、ほぼ院内のことは私が担当するようになりました。今の父は、古くから通院し、『院長でなければ』と希望する患者さんの治療にあたっています」

患者とスタッフの居心地と 働きやすさを重視した院内

新しくなった小笠原歯科・矯正歯科のユニークな設計は、建物内にも見られる。特徴的なのは、受付と待合室の位置関係だ。

玄関を入り、右手の正面に受付がある。待合室があるのは、左側の奥まった場所。待合室にいる患者は、玄関を出入りする人や受付で会計をする人の視線を気にせずに過ごすことができる。



シンボルツリーも美しい正面玄関